



出張報告と 今後の運営方針について

理事長 藤井 忠子

3月のボランティア活動を終えて約3か月後の6月9日から5日間、現地の学校へのお出張報告です。9日夜マニラ空港に到着しましたが、送迎の人で一杯の雰囲気が一変！オイル危機の影響は日本よりかなり大きく、ガソリン価格は約5～6割高。車の通行量はかなり減少。マルコス大統領が国家エネルギー非常事態宣言「この国が9割以上中東からの原油輸入に依存し備蓄量も1か月半」—航空機や車両の使用をを控えるようにと発令中で、なるほどと思いました。民間の足であるジプニーやタクシー運賃の高騰、物流コスト高の影響が直接すぐに食品や日用品に跳ね返っているようでした。

サウスビル I 小学校での合議

出発前に連絡があったのは、契約日10日 8:00 於サウスビル I 小学校。食品配布について実情説明を聞き、翌日11日に合議、締結のスケジュールでした。10日朝連絡で、校長の都合で、開始が12:30に変更。また、翌日の締結日は説明なくキャンセルになり、10日だけで終わったのです。

学校において、校長、校務責任者、コーディネーター2名、支所責任者デニス氏、そして私の計6名で、今年度2026年度の契約について話し合いに臨みました。私は先ず最初に、今後の重要方針を当校に伝えてから契約に臨むべきと考え、「来年の3月末で、法人の活動を閉鎖することが理事会で出され、準備をしている」ことを伝えました。

今回の訪問目的

今回の訪問は、2026年度食品配布支援に関する覚書の合意と締結を行うことを主目的として実施しました。食品配布支援の契約では第一当事者教育省と第二

当事者RASA-Japan(以下RASA)との国家間の長年の関係や、RASAの支援に対して、パートナーシップとしてボランティアの受入、RASAへの協力が明記され、学校側の活動アピールが記載されていました。RASAから5月にマルコス政権の1,000億ペソ(約2,700億円)規模の大きな貧困支援「4Ps」の実情調査依頼と、理事会で決定した支援期間(4月～翌年3月の12か月)をメールで伝えていました。それは、昨年度の契約においても支援期間が異なっており、RASAで訂正した覚書を作成し締結した経緯があるためです。

しかし、契約に臨むと覚書を与えられず、内容の説明もないまま、学校側が準備した署名済み書類へのサインを求められ、会が終わったのです。帰国後に内容を精査した結果、受理できない点が確認されました。また、「4Ps」についても、学校側から「調査ができず、実施状況は不明」との報告でした。

すぐにRASAの示した支援期間に基づき、改定覚書を作成することを校長へ依頼しました。7月末迄に双方合意のうえで覚書の実行となります。

RASAの今後の運営方針について

1999年シーランド神父が設立以来、多くの皆様のご理解ご支援により、フィリピンへの人道支援活動を続けていくことができました。心より感謝とお礼を申し上げます。

しかし、長年運営に携わってきた6名の理事の高齢化と体力面の問題と、寄付者数と寄付額の減少により、団体の継続が困難となり、2027年3月31日をもって、「特定非営利活動法人RASA-Japan」としての活動は終了する方向で準備を進めることとなりました。支援者の皆様には、できる限り早くお伝えすることが誠実であると考え、この紙面でご報告いたします。

皆様にはどうか今後もRASAの歩みに寄り添っていただき、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第17回定時総会のご報告

令和8年5月30日(土)、カトリック平針教会にて「第17回定時総会」を開催し、理事長以下役員8名と会員2名が出席しました。令和7年度の事業報告・決算報告、令和8年度の事業計画・活動予算の4議案について審議を行い、いずれも承認されましたことをご報告いたします。

(令和7年度 活動計算書は次頁に掲載)

1.令和7年度の事業報告

ボランティア派遣事業実施にあたり、2度現地調査を実施。南山大学内中心に参加者募集活動を数回、事前研修会4回実施して、現地活動に臨んだ。日本のボランティア学生が現地学校の授業で活動できるのは、RASAの食品支援に対するパートナーシップで契約に基づいており、コーディネーターの現地でのサポートを受け、ボランティア学生の授業受け入れは好意的であった。

(1) 学校建設事業

2019年ボランティア派遣とともに実施、2020年コロナ禍で全土封鎖後、2022年クラウドファンディング500万円獲得でブラカン州にボランティア派遣をせず最後の学校建設、以降は1面の記事の通り建設不可能。

(2) ボランティア派遣事業

①令和6年度参加のボランティアの文集発行

学生ボランティアは小学6年生を対象の授業で日本語、栄養、衛生の授業、やホームステイ等の異文化体験から、「貧しくても助け合いながら明るく生きる現地の人々の価値観に触れ、自身の生き方を見直す機会となった。」などの感想が文集に寄せられました。

(ホームページ→活動実績アーカイブにてご覧いただけます)

②令和7年度活動の募集

南山大学の教授に協力いただき、授業始めに活動説明や参加ボランティアの体験発表・参加呼びかけを9回行いました。

③事前現地出張

目的:ボランティア派遣事業の準備

食品配布契約及び現地状況の確認

期間: 令和7年7月20日～26日

令和7年11月9日～15日

④ボランティア活動

【Study Tour 2026】

期 間: 令和8年2月15日～3月4日(18日間)

参加者: ボランティア14名、スタッフ3名

※ボランティア派遣事業費用 2,302,980円

(3) 栄養失調児救済事業(食品配布事業)

物価上昇および円安の影響により、同額の予算でも購入できる食品量が減少傾向にあります。

支援対象: 140名 学校が選出した栄養失調児

幼稚園～小学6年生(7学年)

年2回の選出で延べ280名(家族単位)が対象

配布食品: 米、肉・魚缶詰、卵、粉ミルク、インスタント麺等

クリスマス時にパスタセットを別途配布

配布頻度: 毎月2回(12月は準備の都合で1回)

通年配布(休校中2ヶ月間も実施)

費 用: 5,294,775円(支所費用、出張費含む)

2.令和8年度の事業計画

(1) 学校建設事業

学校建設事業の実施は不可能な状態と報告の通りです。今年度も取り掛かれる見通しは立っていません。

(2) ボランティア派遣事業

南山大学内での募集協力体制が変化し、昨年のように協力が得られない状況を踏まえて、今年度のボランティア派遣は検討する。

(3) 栄養失調児救済事業

物価上昇の影響が大きいです。毎月の予算内でカロリー源の米は価格が変動しても毎回5kgを配布し、成長期に必須のアミノ酸値の高い鶏卵や、吸収の良いカルシウム減の粉ミルクは米の次に重視して購入するよう指導し、支援を継続していきます。

年間予算 470万円程度

円安の影響を大きく受けておりますが、皆様からのご支援で活動が継続できております。

今後も、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



定時総会の様子

令和7年度「特定非営利活動に係る」活動計算書
令和7年4月1日～令和8年3月31日まで

単位：円

科 目	前期決算	当期決算	備 考
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入金収入	225,000	175,000	
1) 受取正会員会費	130,000	115,000	会員年会費
2) 受取賛助会員会費	95,000	60,000	〃
2 事業収入	3,108,000	3,899,000	
1) ボランティア派遣事業収入	3,108,000	3,899,000	
3 補助金等収入	392,000	21,000	
1) 受取助成金	200,000	0	東海地域NGO活動助成金
2) 受取補助金	192,000	21,000	ふるさと納税を活用した名古屋市NPO活動補助金
4 寄付金収入	6,162,985	5,108,878	
1) 受取寄付金	6,162,985	5,108,878	
5 雑収入	12,818	82,047	
1) 受取利息	896	5,017	銀行利息
2) 雑収入	11,922	77,030	
経常収入合計	9,900,803	9,285,925	
II 経常支出の部			
1 事業費	7,487,776	7,597,755	
1) 学校建設事業	0	0	
2) 栄養障害児救済事業	4,630,176	5,294,775	
3) ボランティア派遣事業	2,857,600	2,302,980	
2 管理費	2,204,550	2,550,258	
1) 人件費	803,275	803,545	
給与 手当	803,275	803,545	パート勤務スタッフ1名雇用
2) その他経費	1,401,275	1,746,713	
会議費	32,659	97,449	会議関連費用
旅費交通費	63,738	29,176	国内出張費
賄費	181,538	170,332	
通信運搬費	150,711	321,640	郵送料等
事務用品費	223,171	201,918	
修繕費	79,660	95,339	
消耗什器備品費	0	149,800	ノートパソコン2台
水道光熱費	14,930	15,000	灯油・暖房費用
賃借料	444,000	447,000	駐車場他
印刷製本費	22,195	50,354	
諸会費	41,000	20,000	
租税公課	36,317	50,731	収入印紙等
支払手数料	47,515	47,771	
雑費	63,841	50,203	振込手数料等
経常支出合計	9,692,326	10,148,013	
経常収支差額	208,477	-862,088	
III 経常外収益			
経常外収益計	0	0	
IV 経常外費用			
1) 過年度損益修正損	0	0	
経常外費用計	0	0	
当期収支差額	208,477	-862,088	
前期繰越額	6,148,474	6,356,951	
次期繰越収支差額	6,356,951	5,494,863	

食品配布支援を支えるフィリピン支所長 デニス氏



サウスビル I 小学校で続く食品配布支援活動。その現場を支え、子どもたちと家族への支援継続の大きな柱が、RASA現地支所長 デニス氏です。

2012年に栄養失調児の給食支援活動が校外で開始されたのですが、2015年にサウスビル I 小学校の校内に移されました。校長が活動実施(100名の給食にかかる準備や実施を担当)にあたるコーディネーターを先生の中から任命され、給食は調理係やヘルパーが担当しました。しかしコーディネーターは授業等先生としての職務を持ち、空き時間で市場で食品を購入。購入食品の品質や価格に問題が出ており、専任の責任者の必要を感じていました。

2020年3月コロナ禍で学校閉鎖となり、翌年夏頃に再開となりました。長期の外出禁止で貧困層がさらに増え、9月に新校長から「飢餓児童とその家族の救済」の懇願を受けました。家族に食品を配布するため、今迄より数倍の資金が必要でした。事情を知った「手を貸す運動Ⅱ」から資金支援の確約を得られたのです。実施には専従の協力者が必要で、すぐデニス氏が候補に挙がりました。2016～2019年に毎年給食ボランティア派遣活動時のホストファミリーを引き受け、RASAの活動に自発的に多くの協力やサポートの実績があったからです。

準備のため現地に出張して、彼と食品購入場所、価格、納入方法も交渉し、活動開始。毎月2回の米や卵をはじめとする食品の調達や受給対象児童140人分の袋詰め、学校まで自家用車で運搬、実施日の写真撮影、会計書類の作成・報告も、毎回速やかに行っています。さらに、自宅を倉庫・配布準備作業場として提供し、この活動を担っていただいております。



食品配布の様子



配布準備の様子

現在まで順調に活動が滞らずにきたのは、彼の「恵まれない児童への温かい配慮」に他なりません。支援額がたとえ減少したとしても、活動を続けてほしいという強い思いを彼は示し、その揺るぎない姿勢がRASAの活動を支え続けています。彼への熱い感謝の思いと共に、フィリピンのコミュニティでの助け合いの精神が日本でも広がるように、学び努めたものです。

インタビュー:食品配布支援活動を担ってみて

Q:食品配布支援活動の実務を引き受けての感想は？

A: RASA 支所長に2021年就任した時、当初は単純な責任だと思っていました。しかし、関わって行くにつれて、仕事にはもっと大きな目的があることがわかりました。食品配布支援は、サウスビルのコミュニティの多くの恵まれない子供や家族に非常に必要な支援を提供していて、栄養価の高い食事を確実に提供し、日常生活をより元気に過ごすのに役立ちます。プログラムがサウスビル地域社会の恵まれない子供たちの生活に良い影響を与えていることを目の当たりにしたことで、RASAから委託されたボランティア活動の重要性を深く評価しました。

Q:任された仕事に就いて、どのように考え、アプローチしましたか？

A: 支所長を任されて以来、仕事としてだけでなく、思いやり、誠実さ、コミットメントをもって行うべき責任と見てきました。私の仕事がサウスビルのコミュニティの貧しい栄養失調の子供たちの生活に寄与していることを実感したので、これより、代表者としての役割をより大きな献身をもって果たす動機になりました。RASAの一員であることで、共感の価値が高まり、また、貧しい地域社会に良い影響をもたらすチャンスが与えられたことで、いつでも貧しい地域を支援し続けようと思うきっかけになりました。

「手を貸す運動Ⅱミニ」 佐藤正明様 ご紹介

コロナ禍が約1年半続き、フィリピン全土に出された厳しい外出禁止令で、全土に経済活動は低下。特に「日々の労働収入だけで生活している多くの貧困層の中でも、特に危険な飢餓状況に陥っている家族を援助してほしい」と、支援学校の校長先生から、授業の再開前に食品配布の懇願を受けたのです。

その際、RASAの活動創始者シーランド神父が支援協力者としてご紹介くださったのが、「手を貸す運動Ⅱ」創始者の佐藤正明様でした。大きな資金が必要で懸念をしておりましたが、現地の窮状をご理解いただき、直ぐ支援を決断くださいました。

あれから5年が経過した現在も、佐藤様はこの活

動の最大の支援者です。佐藤様は現在95歳、奥様の千鶴子様も80歳。お二人とも玉川大学の教授として、多くの子弟を育成されてきました。その中には、フィリピンの日系企業の責任者を務める方もおり、そこからも支援の輪が広がりました。

また、国際的な支援活動を長年されており、アフリカのシエラレオネやメキシコ等の支援や育成自立の支援等の実績をお持ちです。

さらに、鮮やかな植物画をライフワークとして描いてこられ、自宅をアトリエにされています。作品を葉書やカレンダー、冊子、カード等にして販売し、支援の資金作りを現在も継続中です。

RASA-Japanに祝福を

手を貸す運動Ⅱミニ
代表 佐藤 正明



私どもがRASA-Japanのフィリピンにおける小学校の給食支援に、資金援助という形で初めて参加させて頂いたのは2015年でした。同年7月発行の手を貸す運動Ⅱニュース9号はその特集号で、冒頭に当時RASA理事長だったJ.シーランド神父様がこう書いています。「以前、その給食は私的家屋で行われていました。しかし、6月の初めに給食場所を該当児童たちが学んでいるサウスヴィル I 小学校に移すことを決定しました。そこには今6,000名の学童がいます。…(中略)… 日本に帰国後、藤井忠子さんは私たちにそこでの給食事業について報告し、撮った写真を見せてくれました。彼女は子どもたちが食事の前と後に短いお祈りをする事、給食室は明るい色に塗られ、部屋を涼しくするための扇風機もあること等を話してくれました」と。

これだけでもわかる通り、RASA-Japanの現理事長は当時から頻繁に現地に出向き、どれほど貧しいフィリピン学童たちのために身を粉にして働いて来られたことかと頭が下がります。私どもは国際援助組織ですが、諸々の理由で海外では働けない者の団体なので、資金援助しかできません。ですからRASAさんは私どもができないことをしてくださる実

に有難い提携者でした。それでも、手を貸す運動の代表は現場を見ておく必要があるので、私も2017年にフィリピンを訪問しました。

その時、サウスヴィル I 小学校で感動的な場面を目撃しました。一足先に行っていた当時のRASA理事長藤井典夫さんの手を取り、子どもたちが次々と自分の額に同氏の手を押し当てた後、一人一人去って行ったのです。フィリピンでは尊敬する人の手を自分の額に押し当てるのが最高の敬意なのです。私はそれを見て、RASAがいかばかり尊敬されているかよくわかりました。ちなみに藤井典夫理事長は組織を整備し、学校建設やホームステイ・スタディツアー等に尽力されました。

給食事業は給食室が改築され、給食児童も50名から100名に倍増し、事業は順風満帆に見えました。ところが、そこにコロナ禍が発生、学校は閉鎖の打撃。しかし、RASAは給食を食料パックに変え、貧困児童だけでなく家族までも助けました。私は2017年の訪問の時、カブヤオ市のサウスヴィル I 地区も廻りましたが、そこは最貧国シエラレオネほど貧しかったので、「ここにこそ支援が要る！」と考え、食料パック支援には大賛成でした。私どもはRASAが多くの人を幸せにして来たことを証言し、給食と食料パック支援に私どもを参加させてくださったことに特別な感謝を捧げます。

RASA-Japanに、人々からも、天からも祝福あれ！

現地からのメッセージ

RASA支所責任者 デニス氏が支援者の皆様に受給者の実情をお知らせしたく、取材をしました。住まいの様子や受給児童、ボランティアを受け入れてくださったホストの方々より感謝のメッセージ動画です。ぜひQRコードよりご覧ください。

- ①食品配布受給世帯の住宅生活の様子
- ②入学時から現在まで受給している児童(学業優秀)
- ③ホストとして3回ボランティア学生を受け入れてくださった先生
- ④今年初めて受け入れてくださったホスト



第2回RASAボランティア同窓会 11月に開催します！

ボランティアOB・OGの皆様、懐かしい仲間とあの頃の思い出を語り合える同窓会を開催します。先輩・後輩の垣根なく、ゆったりと再会を楽しめる時間になれば嬉しく思います。スタッフ高齢化のため、「NPO法人RASA-Japan」としての最後の同窓会になります。皆様、ぜひご参加ください！

- ◆開催日:11月28日(土) 12～14時半(予定)
- ◆場 所:名古屋駅周辺
- ◆参加費:5,000円程度 ※お子様連れでの参加も歓迎いたします。



出席確認フォーム

出席をご希望の方は、**8月15日(土)までに**右側の確認フォームよりご登録をお願いいたします。この案内を仲間の皆様にも共有いただけますと幸いです。また、長い年月の中でご連絡が取れなくなってしまった方もいらっしゃいます。差し支えなければ、右記の出席確認フォームより、最新のご連絡先をお知らせいただけますと幸いです。皆様とつながれる日を、心より楽しみにしております。

今後の活動予定

- 10月25日(日) カトリック南山教会 バザー
- 11月28日(土) ボランティア同窓会 開催

会員が減少傾向です！活動を支援いただける方、法人・団体を募集しています！

資料をお送りいたしますので、RASA-Japan事務局までご連絡ください。

※「遺贈によるご寄付」、「相続財産のご寄付」は、相続税が免除されます。お志のある方はご連絡ください。

RASA-Japanは皆様の会費と寄付金で運営されています



認定 特定非営利活動法人
RASA-Japan
理事長 藤井 忠子

〒468-0014 愛知県名古屋市天白区中平2-2627
TEL/FAX 052-803-1649
E-mail info@rasa-japan.com

郵便振替：口座番号 00890-4-31185
受取人 特定非営利活動法人RASA-Japan
三菱UFJ銀行：平針支店 普通 0037025
トクティヒエイリカソドウホウジンラサジャパン

クレジット決済はこちら



ホームページ
<http://rasa-japan.com>



@rasa_japan

@rasa_japan

